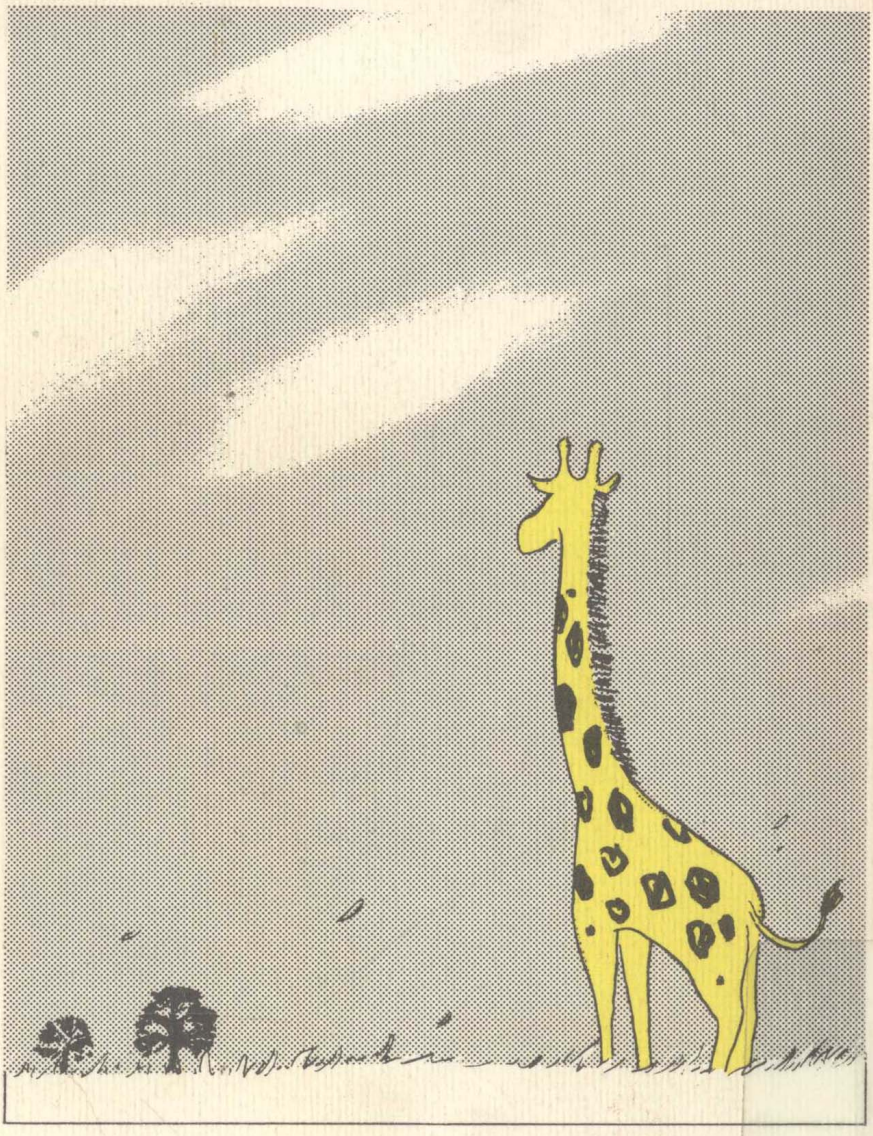
キリンの洗濯



高階杞一

詩集 キリンの洗濯

高階杞一

詩集　キリンの洗濯

一九八九年三月　一日初版発行
一九八九年六月十　日二版発行
一九九〇年四月十　日三版発行
一九九〇年八月十五日四版発行
一九九一年三月　一日五版発行

著者　高階杞一
装画　原　律子
発行所　あざみ書房
発行者　藤富保男
発行所住所　〒152　東京都目黒区緑が丘二―十一―十五
電話〇三（三七一七）四五五九
振替口座　東京三―六三二一七
印刷　(株)京成社
© TAKASHINA Kiichi
定価　一五四五円(本体一五〇〇円)

キリンの洗濯——高階杞一

1983-1988

表紙及扉絵　原　律子

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

キリンの洗濯・目次

I

象の鼻 8
長い物語 10
春 12
てこの原理 14
ぷかぷか 16
つぶされて 18
破裂 20
ホッチキスがやってきて 24
三分間 28
SWEET MEMORIES 32
質問 36
ファンタジーの贈り物
秋深し 38
空の舌 39
冬の花火 40
家には誰も 42
親指のとなり 44

III

昼顔 86
川 90
贈り物 92
訪問 94

Ⅱ

CALL 48
この夏は 50
ゴミの日 52
耳辺に心 54
白鳥 57
お手 60
春になれば 62
螢の光 66
お皿のように 70
冷えないうちに 73
Maybe I'm a fool 76
明日は天気 80
夏は夜 82

Ⅳ

扉 100
ホーキ 102
論語の今後 105
別の道 108
切符を買って 110
爪の月 113
フトンの上で 116
キリンの洗濯 118
五月の天気 121
あとがき 124

I

象の鼻

世界の端っこに
鼻のない象がいて

午後には
おばさんがきて

夜には
君が横にいて

ぼくは

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

長い長い夢を見る
広い砂漠を
あてどもなく歩いていく夢だ
象の鼻をひきずって
何故こんなものを借りたのか、と
考えながら

長い物語

幸福
という本を読み了えた

ラクダに乗って　人が
遠くまで　人に会いに行く物語

ラクダの上で
人は楽だが
ラクダはつらい

何だかんだ言いながら
やっと
世界の果てへ

辿り
着いたところで終わる

会えたのか
会えなかったのか
分らないままに

人とラクダの
長い物語が　終わる

春

オオカミのような動物が
べろっと長い舌を出す
食べられちゃうかもしれない
と人は
グーを出す
オオカミのような動物はパーを出す
その一瞬
世界はしんと静まり返り
夕日が
地球の向うに落ちていく

いつだったか
遠い昔
そんなふうにして
誰かと　たったふたりっきりで　この世に
立っていたような
気がする
春
縁側で
ひとり坐っていると

てこの原理

朝
出かけていくたびに
自分が
向うへずれていく

はるか向うの端に
今朝も　何かが乗っている

象か
ワニか

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com